

法学部 岡崎頌平先生推薦



『キヨミズ准教授の法学入門』

木村草太
(星海社)

本書は、「高度な内容を分かりやすく」を信条とされる木村草太先生（首都大学東京）の手になる「日本一敷居の低い法学入門」である（カバー参照）。「日本一敷居の低い」の言葉どおり、本書には各章の冒頭に漫画家である石黒正数氏によるイラストが配されるとともに、本書の主要登場人物である高校2年生のキタムラさんによるキタムラノートと題される各章のまとめが配されている。また、全編を通じて物語形式で進む本書であるが（あるいは、それだからこそといえるのかもしれないが）、「法学入門」という言葉に見合う内容を取り扱っている。本書の各章で取り扱われている内容は、「法的思考とは何か?」、「社会科学とはどんな学問か?」、「日本法の体系」、「法解釈とは何か?」、「法解釈の学び方」、「法と法学の歴史」である（全6章）。なお、この他に、プロローグ、エピローグもあり、エピローグでは、キヨミズ准教授およびワタベ先生による「法学に関する面白い参考文献」が挙げられている（キヨミズ准教授は法哲学が専門で、法学一般・基礎法学の本を紹介する。一方で、ワタベ先生は知的財産法が専門で、実定法の本を紹介する。）。

さて、以上の紹介からも明らかであるように、本書は法学部に入学したばかりの1年生に向けられた内容となっている。しかしながら、法学をある程度学んだ2年生以上の学生にとっても有益な内容を多く含んでいるものと思われる。それは、本書で取り扱われている内容が「法学というものの考え方の基本の基本」（本書10頁参照）を教えるものであり、改めて基礎固めを促すものだからである。それゆえ、本書は全ての法学部生に薦めることが可能な本であるから、ここに推薦するものである。